徳島新聞　２０２３年（令和５年）８月１３日　日曜日（１６）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

北海道インターハイ

第22日

牛方（生光学園）5位 女子78キロ超級

北海道を主会場とする全国高校総体（インターハイ）第22日は12日、札幌市の北海きたえーるなどで4競技が行われた。徳島県勢は、柔道個人女子78キロ超級の牛方美羽（生光学園）が準々決勝で敗れたものの、5位に入賞した。新体操女子団体の富岡西は21・500点で17位。男子の小松島は6・050点で21位だった。重量挙げは男子73キロ級の福田龍汰郎（徳島科技）がトータルで231キロを挙げ、6位に入賞した。同67キロ級の月岡志龍（鳴門渦潮）はジャークで6位、トータルでは10位だった。卓球の個人シングルス2回戦に挑んだ男子の高田楓真と女子の森下奏（以上城南）は3回戦に進めなかった。第23日は卓球、重量挙げ、ヨットの3競技が行われる。

柔道

【女子】63キロ級1回戦（北海きたえーる）
▽2回戦
木村優花（生光学園）技 合わせ 井上原田莉沙（福井・福井工大）
木村優花（生光学園）優勢 森山美優（千葉・千葉八千代）
▽3回戦
山里椿華（長崎・長崎明誠）優勢 木村優花（生光学園）
▽決勝
清水優陸（佐賀・佐賀商）払い腰 木村穂花（滋賀・比叡山）

▽70キロ級1回戦
浜本さくら（岡山・創志学園）優勢 杉本志穂（生光学園）
▽決勝
前田凜（滋賀・比叡山）小内刈り 鈴木莉緒（千葉・木更津総合）

▽78キロ級1回戦
栗原あづ（群馬・前橋育英）横四方固め 初世姫愛（生光学園）
▽決勝
中野弥花（佐賀・佐賀商）反則勝ち 大多和心（福岡・敬愛）

▽78キロ超級1回戦
牛方美羽（生光学園）反則勝ち 中道咲桜（静岡・東海大静岡翔洋）
▽2回戦
牛方美羽（生光学園）技 合わせ 小林鳥取（福岡・八頭）
▽3回戦
牛方美羽（生光学園）技 合わせ 川添咲心（愛媛・新田）
▽準々決勝
山口千弘（福岡・敬愛）反則勝ち 牛方美羽（生光学園）
▽決勝
井上朋香（佐賀・佐賀商）優勢 山口千弘（福岡・敬愛）

女子78キロ超級準々決勝で敬愛の山口を攻める生光学園の牛方（右）＝北海きたえーる

メンタル面の精進誓う

3回戦で敗れた団体戦の悔しさを晴らそうと個人戦に臨んだ生光学園女子勢。ただ一人、準々決勝に勝ち上がった78キロ超級の牛方だったが、反則負けを喫した。3月の全国高校選抜大会無差別級で5位に入った牛方が目指したのは日本一。しかし、今大会も5位にとどまった。「ここから上に行くには絶対に一本取るという強い気持ちを押し出すことが必要」とメンタル面を敗因に挙げた。

準々決勝の相手は敬愛（福岡）の1年生山口。70キロ超級で全日本柔道連盟の強化選手にも選ばれている実力者だ。それでも「下級生には負けられない」と畳に上がった。

ところが、試合巧者の相手に徹底的に釣り手を落とされ、組み手争いで主導権を握れなかった。果敢に寝技を仕掛けたものの、うまくかわされ決め切れない。「美羽（牛方）、頑張れ」。仲間の声援を背に粘り強く戦った。ただ、延長戦に入ると積極的に技を繰り出せなくなり、三つ目の指導を受けて反則負けした。

団体戦に続き、個人戦も思い描いた結果に届かず、目を赤くした。生光学園の胴着で戦えるのは国体と全日本ジュニアの2大会のみ。牛方は「最後は悔いなく終われるようもっと強くなる」と話した。（佐々木秋穂）